

平成28年度 府立城陽高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）報告

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
努力する心をはぐくみ、知・徳・体の調和のとれた心豊かでたくましい生徒の育成を目指す。あわせて、自ら進路を切り拓く能力や態度を養う。また、あらゆる教育活動を通して、生命と基本的人権を尊重する態度や実践力を育成する。	・高校生としての身だしなみやマナーに最重点を置いて継続的に指導した結果、制服着用に関しては成果をあげた。今後も授業規律の維持と、学力の伸長を一層はかるための教職員の研修及び学校全体の取組を行う。 ・授業規律の確立に重点を置き、良好な教育環境のもととなる「穏やかなクラスづくり」にも一定の成果をあげた。学力の向上については一定の成果は現れたが全体の学力底上げが今後の課題である。今後もインクルーシブ教育の視点を持って、合理的配慮に基づいた「分かりやすい授業」と「きめ細やかな指導」を行い、良好な教育環境のもととなる「穏やかなクラスづくり」を実現する。 ・京都フロンティア校として「TAG城陽」の取組を中心に一定の成果を上げた。今後もキャリア教育を系統的に実施し、特に「TAG城陽」の取組を地域の人材を生かして一層発展させ、生徒に「なりたい自分」を考えさせる。 ・1年生の全員部活動等加入・活動は徐々に成果を挙げつつある。今後も1年生の全員部活動等加入を継続するとともに、競技力の向上や質の高い部活動の一層の活性化に向けて具体的な取組を実施する。	地域に信頼される学校として、城陽高校のアイデンティティーを確立すべき次の取組を短期経営目標とする。 1 生き生きとした教育活動を実践するために、教職員相互のコミュニケーションを大切にし、連携協力と資質向上を図る。 2 厳しさの中にも愛情ある指導によって規範意識を高めながら、人権尊重を基盤にした節度と自覚ある行動が取れる人間づくりをめざす。 3 教育環境を整備し、授業を中心とした学習活動を見直し、確かな学力を定着させ、「生徒が伸びる学校」として、自らが進路を切り拓く能力や態度を養う。 4 部活動の活性化をはじめ学校生活全体の充実と発展に努め、文武両道の精神を育成するとともに、主体性を持った自立できる「人間力」を身に付けさせる。 5 「TAG城陽」の取組を充実させ、地域との連携を深めると同時に、帰属意識の涵養と母校愛の醸成に繋がる行事やイベントに積極的に参加する。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
組織・運営	教育の質的向上を図るためのシステムを確立する。 学校関係者評価委員会、学校評価会議で達成度・課題を明確にして改善を図る。	・部長会議を充実させ、各種会議とも連携を図り効率的な運営を図る。 ・担任、教科担当、分掌間の意思疎通及び共有を図る。 ・保護者、関係者及び生徒アンケートの実施。 ・学校ホームページの積極的な更新。 ・城陽50プロジェクト会議の開催及び実践。	B	B	B	・計画に従って実施できた。 ・保護者、関係者及び生徒アンケートを実施し、疑問点を関係者に返すことができた。 ・ホームページは昨年以上の更新ができた。 ・城陽50プロジェクト会議を開催し新しい取組を実施した。
教育課程の編成と実施	質の高い学力の向上を促し「力をつける授業」への改善	・ひとり一人の進路希望の実現に向けた新しい教育課程の工夫。 ・地域や本校生徒の状況を踏まえての教育課程の実践。	B	B	B	・今後もさらなる工夫を加えて特色ある学校を目指して行きたい。
教科指導	基礎学力を定着させる。 教科指導力を高める。	・「基礎固め学習会」や「基礎補充」をより効果的に機能させ、成績不振生徒への指導を教員間で密にすることにより中退・原級留置の防止を図っていく。 ・ベル着の徹底や授業開始および終了時のあいさつの徹底を全教職員で一致した指導をすることにより、落ち着いた規律ある学習環境づくりを目指す。 ・教科書、問題集、ノート等の私物の持ち帰りを徹底し、各教科で家庭学習を促す取組を計画・実践し、全教職員で一致した指導を行っていく。 ・指導内容・指導方法の工夫・改善を教員が相互に研鑽できるように、授業アンケートを有効に活用し、また、授業の公開を各教科に働きかけていく。	A	A	A	・「基礎固め学習会」や「基礎補充」は計画的に実施できた。特に「基礎固め学習会」は教育ボランティアを積極的に活用したことで、例年にない成果が上がった。 ・落ち着いた規律ある学習環境づくりは一定の成果を上げた。 ・家庭学習を促す取組を行ったが成果が現れたと言いはれ難かった。次年度に向けてより一層の取組を進める必要がある。 ・授業改善の一つとして「アクティブラーニング」を用いた研究授業や研修会を開催し啓発に努めた。
生徒指導	学校生活を中心に据えた基本的生活習慣を確立させる。	・基本的生活習慣の確立に向けて、H R 掲示や学年集会、全校集会などを通じて啓発指導を行う。 ・年間を通して服装・頭髪・装身具などの身だしなみ指導と毎日の登下校時に校門や通学路で、通学マナーや交通ルールの指導を行う。 ・校門での挨拶指導及び遅刻指導を学年と連携し重点的に行う。元気のいい挨拶ができるように教員からも声かけをし、遅刻の多い生徒へは、家庭との連携を密に行う。	A	B	A	・基本的生活習慣の確立と身だしなみ指導については一定の成果を上げたが、通学マナーについてはさらなる向上を継続したい。 ・挨拶、遅刻については昨年度に比べ向上した。特に遅刻指導については、家庭との連携を密にしたことが向上につながった。
特別活動	入部率を高め、部活動、生徒会活動、ボランティア活動を活性化させる。	・Joy o Advance C l u b を中心に意識の向上と活動の活性化のための指導を行い、全体の入部率を男子は80%、女子は60%に向上させる。特に運動部への入部率を向上させる。 ・生徒会活動を中心として、各委員会やボランティア活動を活性化させる。	B	B	B	・全体の入部率は女子が目標に達することができなかった。運動部への入部率も同様である。次年度も継続して向上を図りたい。 ・生徒会活動は役員を中心に大きく活性化した。
人権教育	豊かな人権感覚を育てるために、学年や分掌と連携して、人権尊重の実践的態度を育む。さまざまな人権問題について学習を深める。	・新たな人権学習のあり方を検討し、実行する。 ・年2回、教職員人権教育研修会を行う。 ・「人権教育だより」の発行を通して、人権教育をすべての全教職員にフィードバックする。	B	B	B	・教職員人権教育研修会は1回実施にとどまった。 ・「人権教育だより」は予定どおり発行できた。

進路指導	生徒の進路意識を早期に高め、受験に向けた学力を向上させる。	・生徒一人ひとりが将来の「なりたい自分」を考える機会として、「どれ道学習」や「分野別進路ガイダンス」等の「TAG城陽」の取組を充実させる。 ・「生徒が伸びる学校」として、自ら進路を切り開く能力や態度を養うために、授業を補うための進路補講、土曜教室、業者模試等を効率的に実施する。 ・教職員や生徒に最新の進路情報を適切に提供するため、進路指導研究協議会や進路関係業者と連携し、進路研修会等の実施や「進路だより」の発行、有益な進路情報誌の配布等を行う。	B			・「TAG城陽」の取組は計画どおり実施できた。 ・「生徒が伸びる学校」としての取組の一環として、冬季休業中に2年生の「学習合宿」を実施した。来年度もさらに充実させ、継続する予定である。
安全管理	生徒が安心して学べるように環境整備・校内美化に努める。	・美化・安全点検を日常的に行い、環境美化活動を活性化させ、校内とその周辺の美化と安全管理に努める。 ・保健委員会活動を推進し、委員会ニュース等を活用して、健康や校内美化の啓発に努める。	B	B	B	・環境美化活動については計画どおりに行えた。 ・校内美化活動にも一定の成果を上げた。
財 務	安全な教育環境を確保する。	・節電に努めつつも、生徒が快適な環境で学習できるよう、冷暖房の適正な管理を行う。 ・開校から45年目を迎え、施設設備の劣化が激しいが、危険箇所の早期発見に努め、生徒が安心して学校生活を送れるように努める。	A	A	A	・校内巡視や職員及び生徒向けアンケートを実施し、危険箇所を早期に発見し対応することができた。
広報活動	地域からの信頼や期待に応えられるよう、魅力ある広報活動を行う。	・山城合同学校説明会及び本校学校説明会・部活動体験、個別相談会を各部活動顧問や分掌と連携し、本校の特色を明確にする。 ・城陽高校NEWSの年4回発行とともに、ホームページの可及的速やかな更新に努める。メールサービス等を利用して本校の特色や取組状況等を外部に向けて積極的に情報発信する。	B	B	B	・各説明会で本校の特色を明確に伝えることができた。 ・本校の特色や取組状況等を外部に向けて積極的に情報発信できた。次年度も地域から信頼される学校として情報発信を行いたい。
学校関係者 評価による評価	・城陽高校の目指している方向を理解していただいた。 ・長欠入試で入学した生徒の継続的な指導に尽力してもらいたい。 ・個性を持った誇りある生徒を育成して欲しい。 ・式典での生徒の態度や大きく響く校歌に対して賞賛の声をいただいた。					
次年度に 向けた改善の 方 向 性	・キャリア教育を系統的に実施する。特に「TAG城陽」の取組を地域の人材を生かして一層発展させ、生徒に「なりたい自分」を考えさせる。 ・1年生の全員部活動等加入を継続するとともに、競技力の向上や質の高い部活動の一層の活性化に向けて具体的な取組を実施する。 ・インクルーシブ教育の視点を持って、合理的配慮に基づいた「分かりやすい授業」と「きめ細やかな指導」を行い、良好な教育環境のもととなる「穏やかなクラスづくり」を実現する。 ・授業規律の維持と、学力の伸長を一層はかるための教職員の研修及び学校全体の取組を行う。 ・土曜日を有効に活用した取組を実施し、家庭との連携を密にし進路保障につながる学力の育成に尽力する。 ・広報活動を一層強化し、地元の方々や小学校・中学校・教育関係機関に信頼される「地域に愛される学校」を目指す。					